

研究種目：若手研究 (B)
研究期間：2007～2010
課題番号：19780169
研究課題名 (和文) 近現代日本農村における人口移動—満洲移民・戦後開拓・戦後移民—

研究課題名 (英文) Migration in Modern Japan

研究代表者

伊藤 淳史 (ITO ATSUSHI)
京都大学・大学院農学研究科・助教
研究者番号：00402826

研究分野：農学

科研費の分科・細目：農業経済学・農業経済学

キーワード：農業史、戦後開拓、戦後移民

1. 研究計画の概要

本研究では、近現代日本における人口移動を考察する際に、戦前・戦時と戦後との連関に注目しつつ、「農林省ライン」から接近をはかってゆく。

とりわけ戦後海外移住政策の再開(1952年)にともなう農林省・農政学者・農民団体の移住政策への積極的な呼応に注目したい。戦前・戦時期に「満洲」移民に密接にかかわっていた農林官僚・農政学者はもとより、戦後開拓入植者の団体までもが海外移住を推進してゆく。戦後の移住政策に関しては主に所管官庁である外務省の資料に即して研究が進められており、「農林省ライン」が省みられることはほとんどなかった。しかし、こうした「農林省ライン」が存在したこと、および彼らが「外務省ライン」以上に移住政策に積極的な呼応を示した事実を考える上で、戦前・戦時期との関係は決定的に重要であると考えられる。

なお、戦後移民に関しては研究者間で基本的な事実すら共有がなされていない(たとえば、Befu や坂口は移住政策の終焉を1973年としているが、これは明白な誤りである(JICA が移住者送出に関わる事業費計上を中止するのは1994年度)。本研究によって移住政策の推移を明らかにすることは、それ自体ひとつの意義を備えることとなるだろう。

2. 研究の進捗状況

本研究は、文献資料の収集・整理をもとにした分析を中心として進められる。資料収集としては、外務省外交史料館(東京都港区)および那須文庫(東京都町田市・協同組合経営研

究所高尾分室)にて戦時の満洲移民や戦後の海外移住に関する資料の閲覧・複写を行った。外務省は第15回(2000年5月)・第16回(2000年12月)外交記録公開において戦後移民関係の記録公開を行っており、公開された文書は外交史料館にて閲覧が可能である。また那須文庫は那須皓より協同組合図書資料センター(当時)に寄贈された那須の蔵書を中心とする資料群である。那須文庫所蔵史料をもとにした研究成果が近年登場しているが(たとえば、白取道博『満蒙開拓青少年義勇軍史研究』北海道大学出版会、2008年)、戦後に射程を広げての研究は管見の限り未だ行われていない。外交史料館については2008年度より、那須文庫については2009年度より調査を行っており、本年度も引き続き継続する予定である。また、筆者が携わっている自治体史編纂(大阪府茨木市)においても、戦後の村役場文書に移民に関する資料が含まれていることが判明した。加えて筆者は『ブラジル日本移民100年史』編纂にも関与しており、ブラジルで刊行された各種の通史類を収集することができた。本年度は(4項に掲げるJICA海外移住資料館所蔵資料とともに)これらの資料についても分析を進める予定である。

3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。

(理由)

資料の収集については、概ね当初の計画通り進捗している。また、研究結果の公表については5項に一部を掲げたとおり、学会発表4件(うち国際学会3件)、雑誌論文3件、分担著書1件(刊行予定)、その他(書評等)3件と当初予定よりも多くの公表機会を得ること

ができた。なお、5項には挙げていないが現在投稿論文1件が査読中である。

4. 今後の研究の推進方策

最終年度である本年度は、引き続き資料の収集・整理を行うとともに、研究課題の総括をすることとなる。

資料収集として本年度は新たに神奈川県横浜市のJICA海外移住資料館にて海外移住に関する資料の閲覧・複写を行いたい。同資料館は海外移住センター図書資料室・JICA国際協力総合研修所図書館の収蔵資料をもとに2002年に開館した、日本最大規模の移民資料アーカイブである。所管官庁の関係から、「満洲」移民関連資料が欠落しているという大きな難点はあるものの、戦後の海外移住に関する資料類(文献資料のみならず物品資料も含まれる)の豊富な存在は、本研究の遂行に資するところが大きいと考えている。

なお、前年度までに行った調査の成果は学会において報告を予定しているほか、4年間の研究成果は研究報告書として公刊し広く批判を仰ぐこととしたい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

1. Ito Atsushi “Emigration Policy in Postwar Japan: An Aspect of Agricultural Policy and Historical Context of Japanese Brazilian Immigration” 『農林業問題研究』 forthcoming[査読有]

2. 伊藤淳史 「史学・経済史学の研究動向」 『年報 村落社会研究』第43集、2008年4月、250-262頁[査読無]

(その他紀要論文1件)

[学会発表] (計4件)

1. ITO Atsushi “Emigration Policy in Postwar Japan: An Aspect of Agricultural Policy and Historical Context of Japanese Brazilian Immigration ” , The 8th Conference of the East-Asian Agricultural History, 2008年9月20日, 南九州大学
(その他国際学会2件・国内1件)

[図書] (計1件)

1. 伊藤淳史 「近代日本の移民政策におけるブラジル移民—国内政策としての位置付けを中心に—」 『ブラジル日本移民百年史農業編』近刊(分担執筆)

(ブラジルでポルトガル語版も刊行予定)

[その他]

1. 伊藤淳史 「書評：北崎幸之助著『戦後開拓地と加藤完治—持続可能な農業の源流—』」 『農業経済研究』第81巻第3号、2009年12月、204-205頁